継承

～宜野湾区大綱引き～

8月13日（日）宜野湾区大綱引きが、6年ぶりに、いこいの市民パークにて開催されました。

同大綱引きは、第2次世界大戦が激しさを増した1941年を境に途絶えましたが、2007年に66年ぶりに復活して以来、5年ごとに開催しています。

今年のテーマは『継承』。本来、昨年に開催される予定だった同大綱引きは、新型コロナウイルス感染症の影響により神事のみが行われましたが、同区の伝統文化を次世代に継承していくため、今年に延期して綱引き行事を行うこととなりました。そのため、今回は6年ぶり、そして戦後4回目の開催となります。

開催に向け、6月17日（土）から、休日を中心に同区公民館にて綱作りが行われました。これまでに綱を編んだことのない方でも参加できるよう、綱打ちの講習会から行い、区民の皆さんで今回のテーマ『継承』の言葉を大切にしながら、準備が進められました。当初、予定していた8月6日（日）は、台風6号の接近に伴い、一週間延期となってしまいましたが、迎えた8月13日（日）ついに、6年ぶりの宜野湾区大綱引きが開催されました。

まずは雌綱・雄綱を、道ジュネーを経て会場へ運び、旗頭、棒持ちによるシーチェー（体を激しくぶつける競技）、また同区婦人の皆さんによるメーモーイ（綱引き前の舞い）等の「ガーエー」で気勢をあげ、力を誇示します。士気が最高潮に達したところで、チナユシ（両綱を中央まで引き寄せる）、カナチチジ（カナチ棒の投入）が行われ、綱引きが始まります。通常地上で入れるカナチ棒を、宜野湾区では、両綱の頭部を6尺棒で支え頭上で入れ、結合します。

大綱に乗ったシタクの誘導により、大綱が近寄ったり離れたりと、大蛇のようにうねりながら、そのまま頭上でカナチ棒が投入されました。結合した瞬間に、綱が地上に投げ出され一斉に勝負が始まり、両陣営掛け声をかけながら、力強く綱を引きます。参加者も、観客も一体となって会場全体が興奮に包まれました。激闘の末、後村渠が軍配を上げ、見事3連覇を飾りました。

勝負後は、勝ち組の綱を蛇行し祝う「戻り綱（ムルイヂナ）」が行われ、同区の婦人の皆さんやOB会によるサングヮチャーなどの余興で、勝ち組も負け組も一緒になり、綱引き後の余韻を楽しみました。

①両綱を結合するために綱寄せをする両陣営。②勝利を収め喜ぶ後村渠の皆さん。③OB会・婦人の皆さんによるサングヮチャー踊り。④婦人の皆さんによる前舞い（メーモーイ）。⑤・⑩一斉に綱を引く区民と来場者。⑥子ども会による鼓灯籠（チヂンドゥールー）。⑦お揃いのTシャツに身を包む参加者の皆さん。⑧旗頭ガーエーで会場を盛り上げる。⑨両陣営の棒持ちによるシーチェー。⑪ほら貝を吹く前村渠の皆さん。